

1. Program Title	THIRD プログラム [東南アジアとタイ]
2. Professor	近藤 祐一
3. Activity site	タイ
4. Academic Year	2019 年
5. Period in which program is offered.	秋semester
6. Subject	特殊講義(共通教養科目)
7. Language	英語
8. Credits	2 単位 上限登録単位数に含む。
9. Overview	THIRD で受講する「タイの社会と文化」はタイ人の講師より、タイをどのように理解できるのかを日本とタイとの比較を通して学ぶ授業である。この授業ではそのタイを東南アジアという地域とのマクロの関係で捉え直そうというものである。ASEAN の中核メンバーとしてどのようにタイが周辺の国々と政治的、経済的、社会・文化的に位置付けられているのかを歴史的な各国間の抗争、現代の ASEAN という域内協力の方向性などを含めて考察する。この授業もオムニバスとし、マヒドン大学の講師を中心として多方面からのアプローチを取る。
10. Standard of Completion	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の課題（派遣ごとに設定されるテーマ）について講義による学問的なアプローチと実習を関連づけることができる。 ・アジア太平洋の文化社会について学部での学習事項と関連づけることができる。 ・テーマに沿った現地での活動に必要な知識を身につけ、それを将来的に活かす道筋を見つけることができる。 ・世界を変えるチェンジエージェントとしての基本的な知識を身につける。
11. Teaching Method	この授業は英語で行われ、マヒドン大学講師（タイ人や外国籍）による講義と討議となる。タイを周辺国との関係を外からの視点で捉えられるように授業中に行われる教員との質疑を多く取り入れたものとする。最終のリストの確定は秋になるが、以下の内容により行う予定である。できる限りマヒドン大学の学生の聴講を依頼することによって、タイ人学生の視点も議論の中で学べる機会を設ける。
12. Schedule	1・2 概論 東南アジアの概念の成立 3・4 東南アジアとタイの宗教交流 5・6 東南アジアとタイの政治・外交交流 7・8 東南アジアとタイの経済・ビジネス交流 9・10 東南アジアとタイの文化・芸術交流 11・12 タイと東南アジア域外との関係 13・14 ASEAN の現状と課題 15 授業のまとめ
13. Method of Grade Evaluation	各講師の授業に対する小レポート 40% 全体の授業に対するまとめのレポート 40% 授業出席および討議参加 20%

14. Requirements for students	各授業に必要となる予習、授業での発言、レポートを書くことによる復習に取り組むことが望まれる。各授業で使用される語彙などは別に開講される英語の授業などを利用して、身につけておくことが望まれる。
15. Textbook	各講師の指定による。
16. Further readings	
17. Others	
18. Notes	<ul style="list-style-type: none"> ● 募集人数：20 ● 最少実施人数：10 ● 派遣地域安全情報：レベル 1